

海外安全対策情報 2018年7月～9月

在スロベニア日本国大使館

1 社会・治安情勢

(1) 一般犯罪・事件

報道によれば、ホテル・ユニオンでの出火事案（7月、リュブリャナ）、外国人の洞窟遭難（7月、オレク）、駅前での路上強盗事件の発生（7月、リュブリャナ）、不法移民ブローカー組織の検挙（7月、コペル等）、パラグライダー及びカヤックでの外国人死亡事故（7月、ソチャ川周辺）、店舗対象強盗事件の発生（7月、リュブリャナ）、事務所荒らし被疑者の検挙（7月、トルボーリエ）、不法移民ブローカーの検挙（7月、クルシュコ）、ショッピングカートから財布等を盗む常習窃盗犯の検挙（7月、ポルトロージュ）、落雷による外国人負傷事案（7月、ブレッド湖）、小型飛行機の墜落（7月、ボベツ）、駅での不審物件爆破処理（8月、リュブリャナ）、親類に対する殺人事件の発生検挙（8月、クルカブチェ）、落雷による外国人等負傷事案（8月、ヴェリカ・プラニーナ）、車内にペットを置き去りにした外国人の検挙（8月、ルチヤ）、スクーター利用のひったくり事件の発生（8月、リュブリャナ）、不法移民を乗せた車両の交通事故（ポドゴリエ）、外国人同士の殺人事件の発生検挙（8月、マリボル）、遊泳中の外国人の溺死事案（8月、ボヒン湖）、不法移民ブローカーの検挙（8月、コペル）、ガソリン・スタンド対象強盗事件の発生（8月、コズィナ）、大量のヘロイン等薬物所持犯の検挙（8月、ドムジャーレ）、人身取引・売春組織の検挙（9月、ノボ・メスト）、行政事務所での立てこもり事件発生検挙（9月、クラン）、車両への爆発物設置事件の発生（9月、リュブリャナ近郊）などがあった。

(2) 極右勢力による集会の開催

9月3日、「シュタイェルスカ守備隊」を名乗る覆面を被り戦闘服を着用した男達が、森の中で小銃や斧を把持して整列している動画や画像が、インターネット上に掲出された。同グループ代表のアンドレイ・シシュコ氏は、同6日、憲法秩序転覆扇動により警察に逮捕され、マリボル地方裁判所は、シシュコ氏を一旦釈放したものの、12日に再び勾留した。

また、同17日には、「クラン守備隊」を名乗るグループのSNSに、戦闘服を着用した男8人が、AK47と見られる武器を携行し、訓練を行っている写真が掲出された。「シュタイェルスカ守備隊」と「クラン守備隊」の関連性は不明。

(3) 移民・難民

警察のHPによれば、2018年1月から9月末までの不法入国者数は、6,667人であり、昨年同期比401.3%増に上っている。不法入国者の国籍上位は、パキスタン(1,951人)、アルジェリア(772人)、アフガニスタン(731人)となっている。

2 邦人被害

邦人観光客等のスリ被害は、引き続き発生している。7月から9月は、ブレッド湖周辺でのスリ等の被害が複数報告された。カバンから財布をすられるケースのほか、ホテルでの置き引きとみられる事案もあった。

また、邦人とみられる男性が、投資家と企業家をマッチングするサイトで、投資家を装って高額の投資を行うとの話を持ちかけて邦人起業家を欧州に呼び寄せ、投資する側と投資を受ける側という主従関係を利用しながら欧州各地を連れ回し、ホテル代、食費、遊興費等を支払わせる事案が発生しているとの情報がある。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

当国における邦人の被害情報はない。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

当国の対日感情は全般的に良好であり、問題の報告はない。

以上